

## あれから4年・5度目の3月11日

5度目の3月11日。被災地では様々な形の追悼式典が行われる。福島県内でも帰還困難区域、居住制限区域、避難解除準備区域、帰還した住民、それぞれが心を一つにして多様な追悼が行われる。

どのような催しが行われるかは福島県、県内各市町村のホームページに細かに掲載されている。が、それにとどまらず、各地で住民らが独自に5度目の3月11日を追悼する。福島県内ではこの時期にはテレビでも2011年3月11日に関連した報道が取り上げられる。今だから話せるようになった人、今もってあの時のことを話すことのできない人がいることも現実である。一人一人の震災体験は個別であり、独自であり、その人にしかわからないものがあることを尊重しながらもそのままを受け止めて大事にすること、「大変だったでしょう」との言葉でなく、ただ耳を傾け、話に涙することしかできなくても、それが話してくれた人にとって心休まることなのかもしれない。それは、当時も今も変わっていないと思われる。否、時が経つにつれて確実に別のしんどさが深まっていく人も多い。

## 「3月11日」防災授業

福島県内では、震災の教訓を伝え、忘れないために県内の公立校すべてで3月11日に防災をテーマにした授業や行事が行われることになった。今年は急遽実施が決められたが、来年度からは教育課程に震災関連事業として盛り込まれるという。震災から丸4年たち被災県外での震災風化はもとより、被災県内でも慣れ、風化がじわじわと広がり、震災を知らない子どもたち（覚えていない）が増えてきているため、子どもたちに「生きる力を育んでもらいたい」と県教育委員会は通達を出した。20年前の阪神淡路大震災に関しては、震災発生4年後には風化の兆しが出てきたという。

「福島民報」（2015年2月19日）は「▼全校集会や学年集会を開き、震災を振り返る ▼震災での教訓を踏まえた道徳、防災に関する授業をおこなう ▼防災訓練や避難訓練を実施する ▼震災発生時、災害復旧や避難誘導に当たった警察や消防、自衛隊、市町村安堵の職員の話を書く ▼震災に関連した児童生徒の作文などを読んで、感想を発表し合う ▼『3.11 ふくしま追悼復興祈念行事』での知事メッセージを紹介する ▼卒業式や終業式の式辞などに震災に関連する内容を盛り込む」と通達に盛り込まれている学校での取り組み例を掲載した。

## 飯舘の“未来”を小学生が「議会」で村長に提案

飯舘村の住民はまだ全村避難を続けている。2月6日に小学6年生が村幹部に村政を質す議会、提案の出来る「いいたて村みらい議会」を避難先の福島市内にある飯舘村飯野出張所で開いた。そこで児童たちが交流イベントの開催など帰還後の村振興策などを提案したという記事に興味を持って福島民友に目を通した。小学生は「ツール・ド・飯舘の開催」と題し村内での自転車競技大会を提案した。これに対して、菅野典雄村長は「復興する村をアピールする絶好の機会。可能性は大きい。夢を持って諦めず未来の村をつくっていききたい」と答えたと記載されていた。小学生たちが精

いっぱい故郷の未来を考え避難後の運動不足解消につながるスポーツ施設の整備や観光客を呼び込むための宿泊ツアー、スタンプラリーの開催、スキー場の建設なども提案したことを受けて、村長は「可能性のある提案が三つほどあった。今回の議会を通して、古里に思いをはせてほしい」と期待を込めて発言し、小学生の声、夢に真摯に向き合っている村長の言葉に飯舘村の原発事故以前からの姿勢を見たようだった（平成の大合併に入らず、原発マネーの外で自然との共存の中で共同体を大切にしてきた飯舘村の生き方があり、それを原発事故後も模索している）。

議長役をしていた6年生の女兒は「議会を通して、笑顔で明るい村にしたいと思った」と前を向いて歩いていく感想を語っている。議会には小学生が36人参加した。心にぽっと灯のともる記事、子どもたちに希望をもらった。



福島駅内の春

## グローバル災害論

福島大学は世界の大規模災害復興を目指して、新年度に世界各地で起きた地震、台風、津波など大規模災害からの復興を研究する研究講座「グローバル災害論」を開講する。災害復興は人間、自然の営みすべての復興に関わり、それは復旧、復興だけでなく、いろいろな意味で壊された人、関わりをどのように復活させるかをも含めた総合研究であると思う。研究者、学者が机上の論議でなく、当事者から学びながらの復興講座を期待する。



会津若松教会



磐梯山 SA



雪の少ない浜通りから会津に避難している人の苦勞の一つは雪

## 「福島デスク」の庭の除染

「福島デスク」の庭の除染が2月27日から始まった。まずは庭に落ちた落ち葉を掃き集め、芝生をはがしていく作業。これがまた何とも大変な作業だ。土が見えるようになったところでは、少しずつ、線量を測っていく。線量の高いところには赤いマークでしるしをつけていく。比較的線量の高いところは、低くなるまで土をはがす。福島市は  $0.23 \mu\text{Sv/h}$  を基準にして除染作業をしている。それ以上のところは土をはがしていく。葉を集めて堆肥を作っていた一角は枯葉を取り除き土を掘っていくとかなりの高さの線量だったそうだ。セシウムがそこに集められ、浸透して土に吸着されたいらしい。それで、土をはがしてその上に別の土をかぶせて遮蔽することになる。



「福島デスク」庭 除染中

「福島デスクニュース」次号からは執筆者が変わります。一年間お読み下さりありがとうございました。(N)